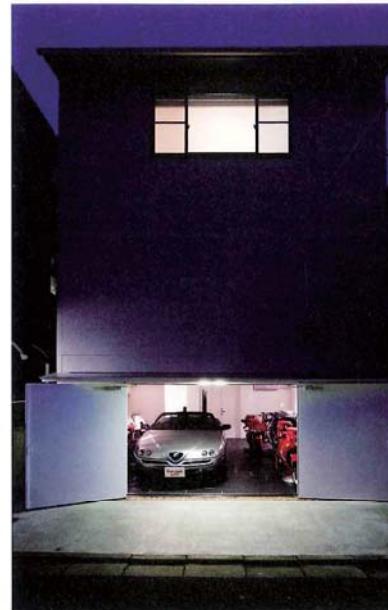


北側の遊歩道から見るK部のファサード。一般的な玄関土間は設けずガレージの空間を最大化しているため、帰ってくると必ずガレージを通るようになっている。



私道に面した南側にはクルマが出入りする大きなスチール製の両開きドア。いかにもガレージといった感じを避け、閉めると倉庫のような雰囲気となっている。

建築面積=ガレージ面積! 家には大切なだけを。

取材時にはガレージにクルマ1台とバイク7台、それに自転車4台が収まっていたKさん夫妻の家。

「狭小」住宅としては破格なボリュームのガレージを実現したのは、割り切りの美学だ。

text/Kota-TAKEUCHI(竹内耕太) photo/Masayuki-YOSHIMI(吉見雅幸)



木造ながら1階に広いガレージを実現できたのは、あらかじめ計画していなかった結果による。ガレージ床はあえて勾配をつけた水平出しし、キャブリオとしての美しさを重視している。

大サイズのあらわし梁で 大開口のガレージを実現。

都心部まで自転車通勤が可能な23区内の住宅街に昨年末完成したばかりのK邸は、敷地面積約18坪で建築面積が10坪余りと、数字だけならまごうことなき「狭小住宅」。しかし実際に中に入ってみると、到底そうとは思えないガレージの広さに圧倒される。これは、一般的な玄関土間や廊下などを一切つくらず、1階の面積いっぱいを愛車のためのガレージとしているためだ。

「まず所有しているクルマとバイクの台数から逆算して、全て入れられるだけの面積が確保できるのかを意識して土地を探しました」というKさんが見つけたこの土地は南北2面が接道しており、両側にドアを作ればバイクの出入りが非常に便利になる、まさにうってつけの物件。

建築家200名以上が登録する「アーキッシュギャラリー」に紹介してもらった建築家・若原一貴さんにプランを依頼する際には、3階建てでガレージがあるという以外、細かい要望はほとんどしなかったという。打ち合わせではバイクやクルマの話が中心で、施主の価値観を建築家が家の形にして提案するという流れだったそうだ。

「バイクに関しては犠牲のない所に美しさはないと考えている方でしたので、オールマイティな家ではなく、必要なものは残し、必要なものは削るという割り切り方を話しながらライフスタイルの部分を組み立てていきました」と若原さん。

Kさんの割り切りの潔さは随所に見て取れる。ガレージ床にはわざと水勾配をつけず水平にし、ギャ



3階から階段を見下す。本棚の上や窓際にちょっと腰かけられるスペースが用意され、シンプルな空間ながら変化を楽しめるようになっている。



上／海外の小さなレジデンスのような、生活感のない心地よさをイメージしたというイベントハウスは開放感たっぷり。大きなキッチンは南からの採光と眺望に恵まれる。左／2階の寝室には高さ約30cmで可動ベッドを造作。あまり物を置かない暮らしを実践できているのは寝室奥にある。出入口が2つあるの大きな納戸による部分も大きい。



Kご夫妻とも海外暮らしが長く、めったに使わないバスタブを置かないと決めしたことにより、広く快適なシャワールームが実現した。洗面台の後ろは収納になっている。

ラリー空間としての見栄えを優先している。雨の日に濡れたまま入るような使い方はしないし、濡れたら外で乾かしてから入るので問題ないといふ。ガレージの高さも最小限に抑えているが、「将来乗る可能性がある中で最も車高のあるクルマを考えたら、カウンタックのドアが開けばそれでいいということになりました(笑)」。

採光と眺望に恵まれる3階にキッチンやダイニングを配し、2階に寝室や水周りを配しているのだが、浴室にはバスタブを設置せず、シャワールームをしているのも、日本では珍しい割り切り方だ。ともとも、海外暮らしの経験からバスタブは年に数回も使わず「風呂に入らくなったら温泉に行けばいい」と(笑)。なまじ狭い浴槽よりも、広いシャワールーム

ムを選択したのだった。

海外駐在中にバスルームが3つもあるような大きすぎる家に住んでいたことがあり、身の丈に合わずかえって不便だったというKさん。それと対照的にこの家は、夫婦2人が理想とする状態を一番維持しやすいサイズで大いに満足している。優先順位にメリハリをつけて、最小限の面積で最大限に快適な空間を実現しているのである。

小さな家だからこそ、家づくりを通じて家族の関係性やライフスタイルを徹底的に見つめ直す。それでも残ったもの——バイクにクルマに自転車にお酒、等々——は、住まい手にとって本当に大切なものの、好きなものをさらに好きになっていく空間、それが狭小ガレージハウスなのだ。

05

S M A L L
H O U S E

BUILDER'S CHECK



若原一貴さん
若原アトリエ
東京都新宿区市谷田町2-20 司ビル302号
phone: 03-3269-4423
<http://www.wakahara.com/>

CHECK POINT



上／1階まるごとガレージという大開口を木造で実現するため太い構造梁を渡し、あらわしとししている。一般的な化粧板と比べて非常に密に配置されている。左下／2階寝室の奥に大きな納戸を設けることで、他の生活空間をすっきりさせることができます。自転車やバイクのバーの姿も……。右下／2階階段下にもちょっとした収納スペース。

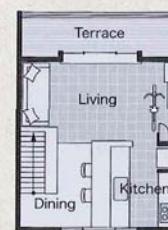
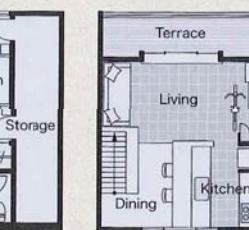
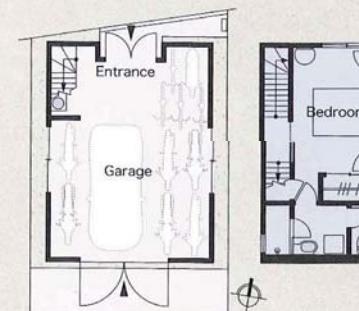
ガレージのある住空間がライフスタイルに与える影響は大きいのですが、たまたまご夫婦とも帰国子女で、空間や使い方の提案を抵抗なく受け入れていただけたのがプランの過程で大きいポイントでした。

まず考えたのは構造的な点です。木造3階建ての1階に、バイクとクルマのレイアウトを邪魔しない広いフリースペースをつくるため、大スパンの梁せい440mmというサイズの梁でフレームを組んで強度を確保しました。一種低層居住地域で斜線制限が厳しかったので高さ方向もコンパクトにする必要があり、ガレージには大きなワゴン車は入りませんよとKさんに言ったところ「この先も乗ることは無いでしょう」とのお言葉でしたのでガレージも高さをぎりぎりにし、木造の梁をあらわす構造にしています。

2階は寝室や水周りで完全にプライベートなスペース。3階は食事をしたりくつろいだりする「イベントハウス」と呼んでいる空間とし、照明も抑えてレストランやバーのような居心地の良い雰囲気としました。窓も數を多くするのではなく、こここ決めた場所に大きな窓を設けて、風景を取りこんでいます。

なるべく仕切りやドアを作らず、住居全体を立体的に大きなワンルームとしています。が、ちょっと腰かけるベンチなど、あちこちに細かな居場所のある仕掛けをし、変化していく空間をテーマに設計しました。

単にガレージのある家、ということではなく、トータルで居心地の良い住まいのあり方を提案し実践できたかなと思います。



Planning Data

所在地：東京都
施主：Kさん
家族構成：ご夫婦
竣工：2012年12月
構造：木造3階建て

敷地面積：59.85m²
延床面積：99.44m²
ガレージ面積：35.58m²

収納車両：3000年式アルファロメオ・スピайдー
1986年式DUCATI 750F1
1989年式DUCATI 851
1996年式DUCATI 916
2000年式DUCATI MH900e
1986年式YAMAHA SDR200
vespaほか

Owner's Check

(✓)自分のこごとお気に入り
3階リビングの居心地と使い勝手の良さ。

(✓)ちょっと失敗
特にありません。1階ガレージのライティングは、これから整備作業をしながらじっくりいくつもりです。

(✓)これからの夢
ガレージという乗り物ができたので、いろんな乗り物にチャレンジしていきたいですね。フェラーリやカウンタック、2ヶ月だけでも乗ってみたいですね(笑)。

(✓)読者へアドバイス
足さなくても引くことで生み出せる広さや豊かさがあるのでが良くなり分かりました。あきらめずに追求してください。

施工：株式会社アーキシュギャラリー 東京ギャラリー
東京都港区元麻布3-4-29
トールブランシュ麻布
phone: 0120-39-5142
<http://www.archish-g.com/>